令和４年度

中四国学生剣道リーダーセミナール

報告書

「中四国を担うリーダーとしての資質の向上を図る」

担当：中四国学生剣道連盟　副幹事長　大西　直（香川大学）

実施概要

日程：令和５年３月１０日（金）～１２日（日）　２泊３日

会場・宿泊：国立江田島青少年交流の家

〒737-2126　広島県江田島市江田島町津久茂１－１－１

TEL 0823 - 42 - 0660

主催：中四国学生剣道連盟

実行委員　大西　直（実行委員長：香川大学)他、中四国学生剣道連盟学生役員24名

特別講師：村上哲彦（松山大学OB・愛媛県警察勤務）

令和４年度　第70回　全日本剣道選手権大会優勝

１１日　実技指導

担当先輩役員：山神眞一先輩、平田佳弘先輩、門脇一則先輩、原川琢至先輩、石井博貞先輩

実施日程

10 日（金）

受付・オリエンテーション・実技研修・パソコン研修

夕食・入浴・シンポジウム・就寝

11 日（土）

起床・部屋の清掃・朝食

実技研修・昼食・写真撮影

夕食・入浴・交流会・就寝

12 日（日）

起床・部屋の清掃・朝食・交流試合・閉会式・解散

令和5年3月10日から12日にかけて国立江田島青少年交流の家において中四国学生剣道リーダーセミナーが開催されました。たくさんの大学にご参加いただき、感謝しております。また、特別講師の村上哲彦先生をはじめ、山神眞一先輩、平田佳弘先輩、門脇一則先輩、原川琢至先輩、石井博貞先輩には、お忙しい中お越しいただき、学生へのご指導ありがとうございました。

この度のリーダーセミナーの詳細についての報告書を作成させていただきましたので、ご査証のほどよろしくお願い致します。

１日目 実技研修

リーダーゼミナール初日の実技研修の時間では主に、基本打ち及び素振り、足さばきを原川先輩のご指導のもと行った。 素振りでは、足から動き出し、左足の引付けと手のふりを一挙動で行うことをご指導していただきました。素振りは、大学の普段の稽古でも必ず最初に行うものであったが、今回行った素振りほど意識を高く持ってできていなかった。最も基本的で当たり前のことだからこそ、様々な意識を高く持つことが重要であると改めて感じることができた。また、足さばき・素振りを通して、上半身ではなく、下半身の重要性を再認識した。体のバランスや打突した際の安定感は、下半身がしっかりしていないといけない。今回の足さばき・素振りでは、そのような安定感を生み出せる意識づけができるものだと感じた。丹田に力を込めて下半身を動かすことで、力強い下半身を生み出せるので、日々の小さな積み重ねを大切にしようと考えることができた。面を付けての稽古では、基本打ちを中心に行った。面を付けるまでの足さばきや素振りの稽古とのつながりがすごく感じられ、稽古を通しての意識の一体化を感じることができ、質の高い稽古を体感することができた。初日の実技研修では、どのような稽古内容であっても、高い目標と意識を持つことの重要性を考えることができた。

（十川　大夢）

パソコン研修

パソコン研修ではまず、Google Drive の使い方について教えていただいた。Google Drive 内のメールの設定方法やメールの送り方についての講義も行われた。次に Google Drive を用いて、中四国の大会への参加申し込みの仕方についての講習が行われた。新人大会、選手権大会、全日本大会、優勝大会とそれぞれの大会ごとの登録の仕方を詳しく教えていただいた。また、中四国の連盟への登録方法についても講習が行われた。記入例を示し具体的にお話をしてくださった。登録や申し込みの際の注意事項についても詳しく学ぶことができた。また、PC で探すことが困難な人名の漢字の検索方法についても教えていただいた。この経験をいかして、来年度の幹部の主務としての職務を全うできるように頑張りたい。

（藤澤　咲希）

２日目の学連員パソコン研修は、OB である石井先輩のご指導のもとでの研修であった。２０２５年のオープン大会は私たち中四学連が主体となって大会を運営していくことになる。そのため今回の研修は、その時の４年生にあたる１年生が参加した。近年はコロナの影響で、このパソコン研修ができておらず、石井先輩に頼るかたちになっていた。しかし、コロナが終息の兆しを見せ、これからは学生でホームページを作り上げていくことになり、その責任感を強く感じた。内容としては、今後の大会に必要なアプリなどのダウンロードを行い、それぞれの大学が主管を務める大会のホームページをしっかりと管理できるようにし、次回大会の新しいホームページの作成や大会の忘れ物などの写真のアップの仕方などを学んだ。選手権大会、優勝大会、新人戦、リーゼミ、４つの大会ともそれぞれに行うことがあり、異なったことをするので、４大学が１つ１つ責任をもって説明を受けた。大会を運営するだけではなく、各試合の申込書の作成、あるいはホームページ作成など、様々な分野において丁寧に説明を受けた。

一から大会を作り上げ、またスムーズに大会を進めていくにあたって、私たち学連員がこのパソコン研修を受け、中四国学生の中の主軸となり、より質の高いものに仕上げていかなければならない。また、これから新入生が新たに加わって、どんどん代変わりしていくが、先輩方からしっかり受け継いで中四国がより良くなるように励んでいきたいと思う。
中四国学生剣道連盟のホームページは数多くの人が閲覧するので、正確かつ分かりやすく情報を掲載しなければならない。そのために、しっかりと確認をし、もし誤りがあれば、間違ったままにせず、直ちに修正を入れることが重要だと学んだ。また、ホームページを通して多くの人に中四国学生剣道連盟の活動について知ってもらうために、ホームページの掲載の仕方や内容などに工夫が必要だと感じた。

（薄木智也）

シンポジウム

今回のシンポジウムは、男子は八班、女子は五班に分け、その班のなかでも四国地方の大学、中国地方の大学、国公立大学、私立大学が混ざるように班分けを行った。その班ごとに話し合ったことは、大学ごとの稽古内容、目標と稽古を行う上での意識の二点について話し合った。この話し合いの意義は地方や大学の違いに着目し、意見交換を行うことで大学同士の考えを共有し、今後の大学ごとでの稽古に反映していくことを目的としている。また、班ごとに話し合った後、班の代表者を決め全員の前で話すことでリーダーとして大勢の前で自分の意見を説明することにつながる。この活動を通して他人と意見共有し、自らの意見を主張し、他人の意見を汲み取ることは今後のリーダーとしての資質能力だと感じた。

①大学ごとの稽古内容

大学ごとの稽古内容についてはどの大学も大きな違いはなく、体操、素振り、切り返し、基本稽古、地稽古の後に掛り稽古を行い、最後に切り返しをするという流れであった。しかし、地稽古を毎日行わない大学、パターン稽古を行う大学、月によっては二部練習を行う大学があり、練習量に差があるように感じた。この話し合いで稽古量に違いが見えたが、稽古に対する意識に関しては各大学、意識を高く持ち稽古を行っているように感じた。このように稽古内容、稽古に対する意識に違いは見られなかったが、大きく違ったのは稽古時間と週に行う稽古日数だった。週に２回の稽古を行う大学もあり、その一方で、週に６回の稽古を行う大学もあった。稽古時間としては、１時間行うのも長いと考える大学もあったが、３時間行う大学もあった。この稽古時間と稽古日数を見ると大学ごとに大きな差が見えた。

この結果から全体で共有した意見としては、稽古時間や稽古日数には差があり、大学ご

との事情もあり、その点については変更は難しいが、練習の質や内容を考えることで練習量の差を埋めていくことができるという意見が出た。このことから、私は、大学ごとの差はあるが、練習に対する考えはしっかりと持っており、部活としていい部活を作り上げていこうという、リーダーに必要な考えを持つことができていると感じた。

②目標と稽古を行う上での意識

この議題で各班で話し合った結果として、以下のような意見が出た。

1.口だけでなく、自ら行動して見せる。
2.注意できる。
3.前の代の言いなりにならない。
4.意見を押し付けない。
5.チームがまとまっていないときは幹部が注意し、意識を変える必要がある。
6.他人の意見を聞き、発信する。
7.時には各自の考えを尊重する。
8.上下関係のないコミュニケーション。
9.参加率の向上を目指した声掛け。
10.練習の士気を上げるための声掛け。
11.短期集中の練習を組む。
12.全員が伸びることのできる練習。
13.楽しく剣道をする環境。
14.チームでの団結を高める。

この意見を全体で共有した結果、大学ごとでの意識の差はあまり見られなかったが、人数の差や中心に部活を運営している学年の差などから違った課題が見えた。人数の少ない部活では、活気のある部活を目指しており、人数のいない分、一人一人の意識が重要になってくると考えた。一方で、人数の多い部活では、一人一人の意識の差がみられるため、部活への取り組み方が二極化してしまうような課題が見られた。また、ある大学では二年生が中心に部活を運営しているため、学年ごとのコミュニケーションや、学年の壁を越えた意見共有が重要だということが分かった。

この話し合いから、このリーダーゼミナールに参加した学生には自分が中心となって学年を超えたまとまりを意識する必要がある。そして、自分の意見を主張するとともに、ほかの部員の意見に耳を傾けることも必要だと考えた。

このシンポジウムを通して、参加学生一人一人の意識が変わったように感じた。この意識や考えを大学に持ち帰って部活の改善を考えてもらいたい。

(大西　直)

2 日目 実技研修

2 日目は、愛媛県警の村上先輩をお迎えして、ご指導していただいた。午前中は、村上先輩の全日本選手権での映像を視聴した。試合映像での村上先輩は、自分の技に自信を持った捨て身の面が印象に残った。私は、試合の中で、自分の技に自信を持つことができないことが多いため、どのような意識を持っているかについて村上先輩に質問させていただいた。村上先輩は、試合では、普段の稽古を信じること、そのために日々の稽古を妥協しないことが大切だとおっしゃられていた。私が最も心に残っているのは、稽古の中で、打たれる勇気を持つことが必要であるということである。稽古では、自分が得意な技や攻め勝っている状態で技を出すだけでなく、自分の不利な状況を作ることや、相手に打たれることを恐れず思い切った技を出すことで、自分が打たれる場面を想定して練習することが、試合での捨て身の技につながっていることを学ぶことができた。

午後からは、村上先輩の号令の下、素振りと面を付けての稽古を行った。そのすべての稽古内での意識で共通することは、打つ時も受けるときも常に試合を想定して、気持ちと縁を切らずに集中することである。自分が技を打つ時に、集中するのはもちろんのこと、自分が受ける場合においても打つ以上に、相手の気迫に負けない姿勢や常に技を狙う気持ちを持つことが大切であると感じることができた。また、その後は、午前中でのお話の中でもあったことにつながる稽古を行った。それは、出小手に対して面を打つ稽古である。普通なら、面に対して出小手を打たれるが、どのような攻め、どのような打ち方をすることで、小手を打たれず面を打つことができるかを考えながら稽古を行った。

2 日目の村上先輩との実技研修では、村上先輩の意識の高さや稽古の取り組み方を教えていただくことで、自分自身大変刺激になり、打たれる稽古の重要性を知ることができたので、今回教えていただいたことをこれからの大学での稽古に活かし、意識の高い稽古を部の中で共有していきたいと思う。

(十川　大夢)

リーゼミ選手権

　このリーダーゼミナールの最終日には、3日間を通して行ってきた実技研修のまとめとしてリーゼミ選手権を行った。この大会のチーム編成は男子2名、女子1名の3人制で、メンバー決めはくじ引きによって行われた。試合前には各チームそれぞれにアップを行い、わずかな時間の中でも共に体を動かし、チーム間の交流を深めた。即席で決められたチームであるが故に、すぐに息を合わしてアップを始めることは難しいかもしれないが、そんなときにも、すぐにコミュニケーションを取り合い、試合に向けて最大限の準備を怠らないことはチームの先頭に立つリーダーに求められる資質の一つであり、今後の人生にも役に立つ能力かと思った。

　試合は、前日に編成されたチーム同士の試合とは思えないほど白熱し、普段は他大学のライバルである人達と同じチームで戦うことができるのはこのリーゼミ選手権の醍醐味である。チームごとにポジションから考え、どうすれば男女ともに勝つことができるか作戦を練っていた。男子と女子が試合をしても男女ともに積極的に一本を取りに行く姿勢が見えた。その中で勝ち進んだチームはチーム内で試合前に話し合い、それぞれの役割を果たすように努力していた。

　優勝は、藤井選手（周南公立大）、寺本選手（東亜大）、平松選手（香川大）のチームであったが、どのチームも持ち味を活かし、お互いを高め合えることができるような試合をしていたように思う。

　今回参加した学生は、この大会で学んだことを各大学に持ち帰り、チーム内で共有して、今後の大会に活かしていくことが重要であるように思った。

（大西　直）

第28回中四国学生剣道リーダーセミナー
剣気
中四国学生剣道連盟
香川大
平松
寺本